令和５年度 福島県立聴覚支援学校会津校

子育て座談会 報告

「ことばを育てる・思考力を育てる」

２月 20日（火）に、東北福祉大学教授 大西 孝志先生を講師にお招きし、子育て座談会を開催しました。早期教育相談「みみちゃん教室」や在校生の保護者さんの要望に合わせて、個別懇談やグループでの懇談を設定し、たくさんの保護者のみなさんに参加していただきました。

年齢や発達の段階に応じて、個別の相談に応じていただくとともに、「ことばを育てる・思考力を育てる」のテーマの下、家庭での関わりで気を付けることや環境づくり、遊びの工夫など、多くのご助言をいただきました。子育てに取り入れていただければ幸いです。

【環境づくりのポイント】

○ 時計

ご家庭に時計があると思います。アナログでしょうか？それともデジタル表示でしょうか？子どもたちが数字に親しみ、時計の読み方に慣れるためには、アナログ時計が望ましいとのことです。デジタル時計の中には、温度計や湿度計がついていたり、日付の表示がでたり、情報量が多く、時刻を読みにくいことがあります。１から １２ まで、数字で示されたシンプルなアナログ時計に慣れさせておくことが、その後の六十進法の学習の素地をつくります。

○ 新聞の活用

ネットニュースが身近になり、新聞を購読していないご家庭が増えています。しかし、聞こえにくさのある子どもたちが、社会の動きに気付いたり、新しい言葉の表現に触れたりする機会として、新聞記事が目に入り、手に取りやすい環境を整えましょう。漢字が読めなくても、大きな記事は写真が掲載されていることがあります。それらを見ながら、生活の中で気を付けること、考えてほしいことなどを話すことで、ニュースの言葉を覚えたり、考える力が育ったりします。

また、新聞紙は、生活のさまざまな場面で活用できます。雨の日に濡れた靴に丸めて入れて乾かしたり、大根や白菜などの野菜を包んで保管したり、親子で一緒に取り組むことで、生活する力が育ちます。最近は、古新聞を束ねて縛ることができない大学生がいます。できて当たり前に思えますが、経験していなければ身に付かないということです。栓抜きや缶切りも同じです。てこの原理を用いた道具です。経験していれば、小学生の「てこの働き」の学習をする際に、理解しやすくなります。

○ 本に親しむ雰囲気

お子さんの視界に絵本や本が入る環境になっているでしょうか？「桃太郎」や「親指ひめ」など、日本や世界の昔話や「ぐりとぐら」「ねずみくんのチョッキ」など定番のお話はもちろん、定番ではなくても、お子さんが「これが好き！」という絵本や本があるのがいいですね！好きな本を何回も繰り返し読んで、物語の流れを自分でお話できるようになってほしいものです。お正月には、十二支の由来のお話をよくします。小学１年生くらいで、十二支を言えるお子さんの中には、「ね、うし、とら・・・・。」と十二支を唱えることができないお子さんもいます。しかし、十二支の由来の物語に親しんだお子さんは、物語の順番で覚えている場合があります。それどころか、「ねこは・・・。」と猫が十二支に含まれない理由を説明できます。

【遊びや関わりのポイント】

○ かるた・花札・トランプなどのカードゲーム

犬棒かるたがお勧めです。「頭隠して尻隠さず」「犬も歩けば棒に当たる」など慣用句の表現を覚えることができます。対象年齢3歳以上のものがほとんどですが、平仮名が分からなくても、絵を手がかりに数枚は取ることができます。繰り返すことで、意味は分からなくても、ことばとして知っていると、意味が分かる年齢になったときに、表現の幅が広がります。

花札は、12か月の季節と日本の伝統文化が絵柄として表されています。季節のものや季語を感覚的に身に付けることができます。ドラえもんやキティちゃんなどキャラクターの花札もあり、子どもたちにも親しみやすくなっています。同じ種類に分類することは、物の概念の形成につながり、学習の中で生きてきます。札ごとに点数が異なるので、点数を数える力も育ちます。

トランプも同様です。数字合わせや柄合わせなどを通して、共通点を抽出する力が育ちます。ルールに沿って遊ぶことは、集団参加にも役立ちます。

子どもたちの数の概念は、初めに物の数え方として10までの数量（左右の指の数）をあつかえるようになります。その次は、50くらいまで数えられるようになり、その後100となります。

かるたも花札もトランプも、50枚前後で構成されています。50 枚くらいのものを自在に操ることができることが大切です。

○ 絵日記・日記の勧め

会津校では幼稚部段階から絵日記を書き始めますが、小学生になっても、日記を続けてほしいとのことです。毎日同じような内容になったとしてもかまいません。当たり前のことを普通に書けることが日記のねらいです。身のまわりで起きたことをきちんと書くことができ、あとから本人や他の人が読んだときに、分かればよいのです。日記を毎日書いていると、生活の中で、「何を書こうかな？」と考える子に育ちます。そうなると、自ずと話題がバラエティ豊かになります。

日記を3枚書けない子には、読書感想文を原稿用紙に4枚書くことはできません。聞こえの程度に関わらず、毎日書いて、絵日記や日記を基に、家でも学校でもお話してほしいです。そして、たくさんほめてあげることが書く意欲、話す意欲を引き出します。

○ 幼児期に積み木やブロック遊び

みみちゃん教室や幼稚部など幼児期の遊びに、積み木やブロックを取り入れましょう。

立方体や直方体、三角柱、円柱などで構成される木製の積み木は、片付けるときに、きれいに並べることでケースに収まるものがあります。平仮名積み木は、積み木としていろいろ作って遊ぶ楽しさに加え、次第に自分や家族の名前、すきなものなどの言葉を構成して遊ぶ楽しさがあります。平仮名 50 音を覚える頃には、あいうえお順に並べて片付けたくなります。

積み木やブロックは、想像を膨らませていろいろな形をつくることができます。「ピタゴラスイッチ」を知っているお子さんは、積み木やブロックでピタゴラ装置をつくるかもしれません。ビー玉を用意してあげると、オリジナルのピタゴラスイッチを楽しめます。工夫して作ったことを、絵日記に表せると言葉としての振り返りもできます。

「大人が当たり前にできることを、当たり前にできるように　教えてあげたい。」

大西先生の言葉を、心に留めて、子どもたちと日々関わっていきたいと思います。